

鍼灸科

科目	解剖学Ⅱ			必修	履修 学年	2	授業の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	64 (4)
目標	循環器系・呼吸器系・消化器系・泌尿器系・生殖器系の構造を理解する。									
内 容										
1	血管系	血管系	17	呼吸器系	鼻腔・副鼻腔の構成					
2	〃	体循環と肺循環	18	〃	咽頭・喉頭の構成					
3	〃	血管の構造と機能	19	〃	肺・縦郭の構成					
4	〃	門脈	20	消化器系	消化管の構造と機能					
5	心臓	心臓の位置・心臓の構造	21	〃	口腔～食道					
6	〃	刺激伝導系	22	〃	咽頭・喉頭の構成					
7	〃	心臓の栄養血管	23	〃	胃の構成					
8	動脈の走行	頭頸部	24	〃	腸の構成					
9	〃	胸腹部・骨盤	25	〃	肝臓の構造					
10	〃	上肢	26	〃	膵臓の構造					
11	〃	下肢	27	〃	腹膜の構成					
12	静脈の走行	体循環系の静脈	28	泌尿器系	腎臓の構造					
13	〃	奇静脈・門脈循環	29	〃	尿路系の構成					
14	胎児循環		30	生殖器系	男性生殖器					
15	リンパ循環		31	〃	女性生殖器					
16	定期試験		32	定期試験						
評 価										
<p>出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある</p>										
教 材										
解剖学 医歯薬出版社										
				担当講師	桑原 俊男					

鍼灸科

科目	生理学Ⅱ			必修	履修学年	2	授業の方法	講義	時間数 (単位数)	64 (4)
目標	医学は、生命の維持と健康の増進を目標としています。医療はその健康の維持に生じた不具合を治すことを目標とする学問です。生理学は、生命現象を基本として、人体の構造と機能について学ぶ学問です。人体の機能を、血液、呼吸、消化、吸収、代謝、排泄の植物性機能と運動、感覚、神経の動物性機能についてそれぞれ詳しく学ぶことにより、人体の機能を理解していきます。									
内 容										
1	循環	心臓の構造	17	生殖	生殖器					
2	〃	刺激伝導系	18	〃	受精と発生					
3	血管	動脈・静脈・毛細血管	19	成長と老化	個体の成長					
4	〃	肺循環・体循環・冠循環	20	〃	加齢変化・更年期障害					
5	呼吸	外呼吸・内呼吸	21	内分泌	ホルモンの種類					
6	〃	気管・気管支。肺の構造と機能	22	〃	ホルモンの調節と機能					
7	肺胞換気	肺におけるガス交換	23	内分泌器官	視床下部ホルモン					
8	消化	酸素・二酸化炭素の運搬	24	〃	甲状腺ホルモン					
9	〃	口腔～食道の構造と機能	25	〃	副腎皮質ホルモン					
10	吸収	胃の構造と機能	26	血液	血液の成分と機能					
11	〃	小腸・大腸の構造と機能	27	〃	血液凝固作用					
12	栄養	栄養とエネルギー	28	体温	体温の調節					
13	〃	同化作用と異化作用	29	〃	体温の産生と放散					
14	代謝	基礎代謝・物質代謝	30	排泄	腎臓の構造と機能					
15	〃	糖質・脂質代謝・タンパク質代	31	〃	体液の調節・排尿反射					
16	定期試験		32	定期試験						
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
生理学 医歯薬出版社										
					担当講師	木村 健太郎				

鍼灸科

科目	病理学概論 I			必修	履修 学年	2	授業の 方法	講義	時間 数 (単位数)	64 (4)
目 標	身体を構成する細胞・組織・器官が正常な形を保ち、正常な生理機能を営むことで円滑な生命現象を果たしている病理学は、病的な状態の身体に起きている異常や変化について学び、疾病の原因や成り立ち・進展など疾病の背後にある要因を明らかにしてゆきます。									
内 容										
1	正常と異常	正常と病態の区別	17	腫瘍	腫瘍とは					
2	〃	病気の分類	18	〃	良性腫瘍と悪性腫瘍					
3	〃	症状・兆候・症候	19	〃	上皮性腫瘍と非上皮性腫瘍					
4	〃	正常をゆがめる要因	20	先天性異常	奇形とは					
5	〃	正常への回復に影響する要因	21	〃	染色体異常疾患					
6	循環器系障害	虚血と梗塞の定義	22	〃	遺伝子の異常					
7	〃	充血とうっ血	23	免疫系の異常	免疫獲得のメカニズム					
8	〃	浮腫の分類	24	〃	免疫不全症					
9	細胞・組織障害	細胞の障害と適応	25	〃	先天的免疫不全症					
10	〃	細胞の死	26	〃	アレルギー疾患と分類					
11	〃	ネオクローシスとアポトーシス	27	〃	自己免疫疾患					
12	炎症	炎症とは	28	代謝性疾患	糖質・脂質・タンパク質代謝					
13	〃	創傷治癒のメカニズム	29	〃	代謝の正常な仕組み					
14	感染症	病原体の種類	30	〃	糖・脂質代謝の異常なメカニズム					
15	〃	汗腺の成立	31	〃	ミネラル・ホルモンバランス異常					
16	効果判定		32	効果判定						
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
病理学概論 医歯薬出版社										
					担当講師	各務 順				

鍼灸科

科目	臨床医学総論 I		必修	履修 学年	2	授業の 方法	講義	時間 数 (単位数)	32 (2)
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 疾病概念を学び、鍼灸師として必要な臨床医学に関する基本的知識を獲得する。 ・ 疾患に対する検査法を選ぶことが出来、疾患と検査を結びつけることが出来る。 								
内 容									
1	診察の概要	診察の意義・診察の一般心得							
2	〃	関連用語の理解・診察法の種類							
3	〃	診察の順序・記録の内容と目的							
4	診察方法	医療面接							
5	〃	診察方法（視診・触診・打診・聴診）							
6	〃	測定法							
7	生命徴候の診察	バイタルサイン							
8	〃	体温・脈拍							
9	〃	血圧・呼吸							
10	全身の診察	顔貌・顔色・他							
11	〃	精神・言語・他							
12	〃	身体計測・体形・他							
13	局所の診察	頭顔面部・他							
14	〃	眼・耳・鼻・他							
15	〃	頸部・胸部・他							
16	定期試験								
評 価									
<p>出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある</p>									
教 材									
臨床医学総論 医歯薬出版社									
						担当講師	松丸 啓司		

鍼灸科

科目	臨床医学総論Ⅱ		必修	履修 学年	2	授業の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	32 (2)
目 標	臨床医学総論Ⅰに引き続き、疾病概念と病態を学び、鍼灸師として必要な臨床医学に関する基本的知識を獲得する。疾患に対する検査法を選び、疾患と検査を結びつけることができる。								
内 容									
1	神経系の診察	脳神経系・髄膜刺激症状の検査							
2	〃	感覚検査法・反射検査・他							
3	運動機能検査	運動麻痺・不随意運動							
4	〃	徒手筋力検査・他							
5	その他の診察	緊急時の診察							
6	〃	年齢・性別毎の診察							
7	臨床検査法	一般検査・血液性化学検査							
8	〃	生理学的検査概要・画像診断概要							
9	主症状の診察法	頭痛・顔面痛・歯痛・眼精疲労							
10	〃	鼻閉・鼻汁							
11	〃	めまい・耳鳴り・難聴・他							
12	治療学	概要・薬物療法							
13	〃	食事療法・理学療法							
14	臨床心理	患者の心理							
15	〃	心理学的検査・評価法							
16	定期試験								
評 価									
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある									
教 材									
臨床医学総論 医歯薬出版社									
						担当講師	佐藤 美紀		

鍼灸科

科目	臨床医学各論 I			必修	履修学年	2	授業の方法	講義	時間数 (単位数)	64 (4)
目標	現代の予防医学の重要性と健康志向などから東洋医学ことに鍼灸医療への期待やニーズが高まっている。東洋的アプローチを含め全人的な医療が求められる傍ら、疾病に対する科学的な知識をもたずに臨床現場に立ち入ることはあってはならない。本科目では疾病を科学的、疫学的な観点で学び、俯瞰的に患者や症状を見る力を養い、身につけることを目的としている。卒後、臨床家として患者の前に立つ諸子に実務的な観点で疾病を判断することのできる知識と技術を講義して行く。									
内 容										
1	感染症 1	臨床で遭遇する細菌感染症と感染経路	17	整形外科学総説	保存的治療と観血的治療					
			18	〃	画像診断学 総論					
2	感染症 2	ウイルス感染、薬剤耐性問題	19	関節疾患	関節炎、可動域の異常、OA					
3	脳血管疾患	くも膜下出血、脳梗塞、脳虚血、脳腫瘍、脳動脈瘤	20	〃	いわゆる五十肩、投球肩					
4	循環器	血栓、奇形、機能異常と症状	21	〃	椎間関節症とヘルニア、狭窄症					
5	脳疾患	神経膠腫、髄膜腫ほか	22	〃	すべり症、徒手検査と症状					
6	変性疾患	大脳基底核の病変	23	骨代謝性疾患	骨粗鬆症、くる病					
7	錐体路障害	ドパミン欠乏と症状	24	〃	骨軟化症、骨腫瘍、関節鼠					
8	〃	アセチルコリンなどの伝達物質の働き	25	筋と筋疾患	筋肉の炎症と症状、筋膜炎					
9	筋疾患	筋ジストロフィーの分類と運動障害	26	〃	腱鞘炎、神経管の症状					
10	〃	徒手検査、筋と末梢神経、障害	27	形態異常	先天性股関節脱臼、斜頸					
11	末梢神経疾患と治療	ブロック注射の適応、守備範囲	28	〃	側湾症の計測方法					
12	感染性肺疾患	日和見感染と肺炎	29	〃	斜頸、外反母趾、内反足					
13	呼吸器の感染	症状と最新の知見	30	脊椎疾患	椎間板ヘルニア、OPLL					
14	非結核性抗酸菌	肺抗酸菌症の特徴	31	〃	LSCS、変形性脊椎症					
15	まとめ	復習と質疑応答	32	定期試験						
16	定期試験									
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
臨床医学各論 医歯薬出版社										
					担当講師	内藤 啓				

鍼灸科

科目	臨床医学各論Ⅱ			必修	履修学年	2	授業の方法	講義	時間数 (単位数)	64 (4)
目標	高齢化社会、社会構造の複雑さ、生活習慣病の増加などを受け、現代の疾病構造も複雑かつ多様化している。また、合併症、併発症も伴い鍼灸医療に対する社会的ニーズもきわめて多様化している。本科目は鍼灸診療を志す諸子に現代医学の観点から臨床医学について講義的な解説を行うものである。医療や疾病の基本を身につけることはすべての医療従事者にとって必須であり、多様なケースにおいて適切な判断を実務的に行うことができるようになることを目標としている。									
内 容										
1	総論	感染症総説、洗浄、消毒、滅菌 感染の続発	17	消化器疾患総説	各疾患、口腔疾患を含む					
2	細菌性疾患	各感染症	18	食道疾患	ホルネル症候群など神経障害					
3	ウイルス性疾患	各感染症	19	腸疾患	潰瘍・イレウス・腫瘍を含む					
4	法定感染症	1～5の分類（年度最新版）	20	〃	その他痔疾患など					
5	脳血管疾患	各症状、評価スケール	21	肝臓疾患	肝炎等感染症も含む					
6	脳、脊髄腫瘍	変性症などの症状も含む	22	〃	腫瘍マーカー、各症候					
7	認知症	各症状、評価スケール	23	胆道疾患	各症候					
8	筋疾患	各疾患、遺伝子要因も含む	24	膵臓疾患	慢性・急性・腫瘍・各部の特徴					
9	〃	各所見と理学検査を含む	25	腎臓疾患	ネフローゼ症候群					
10	末梢神経疾患	麻酔科領域を含む	26	〃	浮腫、高血圧、前立腺疾患					
11	〃	感染症も含む	27	女性生殖器	HPV、PMS含む					
12	神経痛	末梢神経疾患 全般	28	血液疾患	各疾患、口腔疾患を含む					
13	機能的疾患	群発性頭痛を含む	29	リンパ網内系疾患	悪性リンパ腫等					
14	呼吸器疾患	感染性肺疾患	30	出血性素因	DIC、血友病					
15	〃	機能的肺疾患	31	症例検討	超音波検査・血算・心電図から					
16	定期試験		32	定期試験						
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
臨床医学各論 医歯薬出版社										
					担当講師	内藤 啓				

鍼灸科

科目	リハビリテーション医学			必修	履修 学年	2	授業の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	32 (2)	
【実務経験のある教員等による授業科目】											
目標	鍼灸師の立場でスポーツトレーナーを行っていた経験から、これまで経験したリハビリ領域における運動量の過不足、また患者の心理面でのサポートの考え方をこの本教科の基本として教育を行う。										
内 容											
1	リハの総説	リハビリテーションと障害リハビリテーション医学と医療									
2	〃	障害の評価									
3	〃	障害の評価									
4	医学的リハ	理学療法①									
5	〃	理学療法②									
6	〃	作業療法									
7	〃	言語聴覚療法									
8	〃	補装具、リハビリテーション看護ソーシャルワーク									
9	運動の仕組み	関節と運動力学									
10	〃	神経伝導路									
11	〃	関節構造、関節の動き①									
12	〃	関節構造、関節の動き②									
13	〃	関節構造、関節の動き③									
14	〃	正常歩行と異常歩行									
15	総括										
16	定期試験										
評 価											
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある											
教 材											
リハビリテーション医学 医歯薬出版社											
							担当講師	木村 健太郎			

鍼灸科

科目	基礎はりきゅう学 I		必修	履修 学年	2	授業の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	32 (2)
目 標	はりきゅう学の基礎習得のために、東洋医学・臓腑・経絡・経穴・正経十二経、奇経八脈などを学ぶ								
内 容									
1	東洋医学の特徴	東洋医学の沿革・人体の見方							
2	〃	日本の東洋医学の現状							
3	生理と病理	生理事物と神							
4	〃	蔵象①							
5	〃	蔵象②							
6	〃	経絡							
7	〃	病因病機							
8	東洋医学の思想	陰陽学説							
9	〃	五行学説							
10	四診	望診							
11	〃	聞診							
12	〃	問診①							
13	〃	問診②							
14	〃	切診							
15	弁証論治								
16	定期試験								
評 価									
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある									
教 材									
東洋医学概論 医道の日本社									
						担当講師	鎌田 敏孝		

鍼灸科

科目	基礎はりきゅう学Ⅱ	必修	履修 学年	2	授業の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	32 (2)
目 標	各経脈の走行や経穴の部位及び特性について学習する。 各経脈の走行を把握し、十四経脈の経穴及び要穴を覚える。							
内 容								
1	経絡・経穴の基礎							
2	督脈							
3	任脈							
4	太陰肺経							
5	陽明大腸経							
6	陽明胃経							
7	太陰脾経							
8	少陰心経							
9	太陽小腸経							
10	太陽膀胱経							
11	少陰腎経							
12	厥陰心包経							
13	少陽三焦経							
14	少陽胆経							
15	厥陰肝経							
16	定期試験							
評 価								
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある								
教 材								
経絡経穴概論 医道の日本社								
						担当講師	鎌田 敏孝	

鍼灸科

科目	基礎はりきゅう学Ⅲ			必修	履修 学年	2	授業の 方法	講義	時間 数 <small>(単位数)</small>	32 (2)
目 標	人の身体を「総合的に診断し、治療を行う」といわれる東洋医学の概念や理論・治療法を理解し、臨床で活かせる知識を学ぶ。 東洋医学の特徴である「人の全体を診る」ということを理解し、治療が行える考え方を身に付けることを目標とする。									
内 容										
1	弁証	八綱弁証								
2	〃	気血津液弁証								
3	〃	臓腑弁証								
4	〃	経絡弁証								
5	〃	六淫弁証								
6	〃	その他の弁証								
7	論治 (治則)	扶正去邪・治病求本・標本同治								
8	〃	陰陽の調節、正治と反治								
9	論治 (治法)	治法八法								
10	〃	生体物質の病証に対する治法								
11	〃	臓腑の病証に対する治法								
12	〃	外感病に対する治法								
13	〃	補瀉法、選穴の原則、特定穴の応用								
14		弁証の進め方								
15	総括									
16	効果判定									
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
東洋医学概論 医道の日本社										
						担当講師	松丸 啓司			

鍼灸科

科目	分野別はりきゅう学			必修	履修 学年	2	授業の 方法	講義	時間 数 (単位数)	64 (4)
【実務経験のある教員等による授業科目】										
目 標	整形外科での勤務経験を活かして疾患別、症状別に施術ができるようそれぞれの発生機序、症状の経過を考察し、適切な施術を教育する。									
内 容										
1	腰背部	触診と観察	17	頭顔面部	触診と観察					
2	〃	関連痛でない背部痛	18	〃	美容鍼					
3	〃	リスク管理	19	〃	〃					
4	〃	手技療法	20	〃	〃					
5	項頸部	触診と観察	21	下肢	触診と観察					
6	〃	リスク管理	22	〃	リスク管理					
7	〃	仰臥位、側臥位での刺鍼	23	〃	神経痛					
8	肩背部	触診と観察	24	足関節部	触診と観察					
9	〃	関連痛でない背部痛	25	肩、肘関節	回旋筋腱板、野球肘					
10	〃	リスク管理	26	〃	テニス肘、腱鞘炎					
11	肩甲帯	触診と観察	27	経絡と鍼灸治療	疾患症状と経脈、選穴①					
12	〃	関連痛でない背部痛	28	〃	疾患症状と経脈、選穴①					
13	〃	リスク管理	29	〃	特定経穴					
14	臀部、股関節部	触診と観察	30	上半身の復習						
15	総括		31	下半身の復習						
16	定期試験		32	定期試験						
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
配布資料										
					担当講師	荻野 修平				

鍼灸科

科目	東洋医学臨床論			必修	履修 学年	2	授業の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	64 (4)	
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代医学と東洋医学を総合した鍼灸治療の実際を学習し、医療面接の元、治療の適・不適を判断することができる。 ・臨床上遭遇しやすい症候、疾病について現代医学的な考え方、東洋医学的な考え方の双方を学び適切な鍼灸治療方法を理解し、説明をすることができる。 										
内 容											
1	治療総論	現代医学、東洋医学の治療計画	17	治療各論	排尿障害						
2	〃	〃	18	〃	インポテンツ						
3	〃	〃	19	〃	頸肩腕痛						
4	治療各論	頭痛	20	〃	肩関節痛						
5	〃	顔面痛、顔面神経麻痺	21	〃	上肢痛						
6	〃	歯痛	22	〃	腰下肢痛						
7	〃	眼精疲労	23	〃	月経異常						
8	〃	鼻閉・鼻汁	24	〃	運動麻痺						
9	〃	脱毛	25	〃	高血圧・低血圧・発熱						
10	〃	めまい・耳鳴り・難聴	26	〃	のぼせと冷え						
11	〃	咳嗽・喘息	27	〃	不眠						
12	〃	胸痛、腹痛	28	〃	疲労・倦怠						
13	〃	悪心・嘔吐	29	〃	スポーツ医学に関する鍼灸						
14	〃	便秘・下痢	30	〃	小児の治療						
15	総括		31	〃	老年医学に対する鍼灸						
16	定期試験		32	定期試験							
評 価											
<p>出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある</p>											
教 材											
東洋医学臨床論 医道の日本社											
					担当講師	東條 雅裕					

鍼灸科

科目	社会あはき学概論			必修	履修 学年	2	授業の 方法	講義	時間 数 (単位数)	32 (2)
★実務経験のある教員等による授業科目										
目標	地域クリニックの連携（同意書面）を経ての療養費訪問鍼灸施療の経験を活かして、鍼灸施術と医療機関の関係性の持ち方や、患者の検査結果と鍼灸施術の守備範囲や専門医への紹介方法、文書、医療介入のすみ分け、各疾患毎の診察診療の基礎と具体的なプライマリアクションなど再現性の高い方法、手段を教育する。									
内 容										
1	第1章	総論 社会的ニーズとあはき師の役割								
2	第4章	高齢社会におけるあはき師の役割								
3	〃	認知症におけるあはき師の役割								
4	〃	少子化社会におけるあはき師の役割								
5	各疾患ごとの施術	脳卒中①								
6	〃	脳卒中②								
7	〃	脊髄損傷①								
8	〃	脊髄損傷②								
9	〃	切断								
10	〃	小児								
11	〃	整形外科								
12	〃	関節リウマチ								
13	〃	末梢神経障害・パーキンソン病								
14	〃	呼吸・循環器疾患								
15	総括	まとめ								
16	定期試験									
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
社会あはき学概論 リハビリテーション医学										
						担当講師	椎名 賢太郎			

鍼灸科

科目	はりきゅう応用実技Ⅱ			必修	履修 学年	2	授業の 方法	実習	時間 数 <small>(単位数)</small>	64 (2)
目標	現代の予防医学の重要性と健康志向などから東洋医学ことに鍼灸医療への期待やニーズが高まっている。東洋的アプローチを含め全人的な医療が求められる傍ら、疾病に対する科学的な知識をもたずに臨床現場に立ち入ることはあってはならない。本科目では疾病を俯瞰的に症状を見る力を養い、臨床技術を身につけることを目的としている。卒後、臨床家として患者の前に立つ諸子に実務的なレベルで疾病を判断し施術することのできる知識と技術を身につける。									
内 容										
1	単刺	頸部、体幹	17	低周波鍼通電	頸部の筋、骨の触察技術					
2	〃	体幹、殿部	18	〃	後頭下筋群					
3	〃	上肢	19	〃	〃					
4	〃	下肢	20	〃	〃					
5	〃	症状別	21	〃	寝違え、可動域障害					
6	運動鍼	頸部、体幹	22	〃	視力調節障害、眼精疲労					
7	〃	体幹、殿部	23	〃	背部の骨筋構造の触察技術					
8	〃	上肢	24	〃	脊柱起立筋					
9	〃	下肢	25	〃	〃					
10	〃	症状別	26	〃	〃					
11	灸	頸部、体幹	27	〃	〃					
12	〃	体幹、殿部	28	〃	〃					
13	〃	上肢	29	〃	腰部の触察と判断					
14	〃	下肢	30	〃	筋膜性腰痛					
15	〃	症状別	31	〃	非特異性腰痛					
16	効果判定試験		32	効果判定試験						
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
配布資料										
					担当講師	松丸 啓司				

鍼灸科

科目	はりきゅう治療実技Ⅱ			必修	履修 学年	2	授業の 方法	実習	時間 数 (単位 数)	64 (2)
【実務経験のある教員等による授業科目】										
目標	鍼灸院を開業し患者、クライアントの診療経験を活かして現代の予防医学の重要性と健康志向などから東洋医学ことに鍼灸医療への期待やニーズに的確に応えていくための授業を行う。またそれがクライアントや療術施設へのリスク管理にもつながる。東洋的アプローチを含め全人的な医療が求められる傍ら、疾病に対する科学的な知識をもたずに臨床現場に立ち入ることはあってはならないことを具体例を織り交ぜながら教育する。									
内 容										
1	理学所見と判断	症状の判断と施術（下肢）	17	婦人科疾患	灸					
2	〃	〃	18	〃	灸					
3	〃	〃	19	〃	低周波鍼通電					
4	〃	症状の判断と施術（胸郭出口）	20	スポーツ疾患	単刺					
5	〃	〃	21	〃	置鍼					
6	〃	症状の判断と施術（上肢、体幹）	22	〃	低周波鍼通電					
7	〃	〃	23	〃	灸					
8	〃	〃	24	〃	テーピング、運動療法					
9	〃	〃	25	〃	リハビリ					
10	〃	〃	26	退行性変性	関節炎					
11	問診と触察	ケーススタディー	27	〃	〃					
12	〃	ケーススタディー	28	〃	筋萎縮					
13	〃	ケーススタディー	29	〃	〃					
14	〃	ケーススタディー	30	〃	運動療法					
15	〃	ケーススタディー	31	〃	ボディーメカニクス					
16	効果判定試験		32	効果判定試験						
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
配布資料										
					担当講師	木村 健太郎				

鍼灸科

科目	分野別はりきゅう実技			必修	履修 学年	2	授業の 方法	実習	時間 数 (単位数)	64 (2)
【実務経験のある教員等による授業科目】										
目 標	整形外科での勤務、臨床経験を活かして人体構造の仕組みと施術技術を具体的に身体各部位にて鍼通電、円皮鍼、普通鍼、または運動療法にて教育をおこなう。									
内 容										
1	腰背部	腰背部刺鍼の基本操作	17	頭顔面部への刺鍼	三叉神経痛、突発性難聴					
		触診と観察 リスク管理	18	〃	美容鍼					
2	〃	関連痛でない背部への刺鍼	19	〃	〃					
		灸頭鍼	20	〃	〃					
3	〃	低周波鍼通電、円皮鍼、	21	下肢	下肢後面					
4	〃	手技療法、運動鍼	22	〃	低周波鍼通電					
5	項頸部	腹臥位・座位での刺鍼	23	〃	大腿四頭筋部					
6	〃	低周波鍼通電	24	足関節部	前距腓靭帯、二分靭帯部					
7	〃	仰臥位、側臥位での刺鍼	24	〃	アライメント					
8	肩背部	腹臥位・座位での刺鍼	25	肩、肘関節	回旋筋腱板、野球肘					
9	〃	低周波鍼通電	26	〃	テニス肘、腱鞘炎					
10	〃	灸頭鍼	27	経絡と鍼灸治療	疾患症状と経脈、選穴①					
11	肩甲帯	触診と観察、障害筋の特定	28	〃	疾患症状と経脈、選穴①					
12	〃	低周波鍼通電、運動鍼	29	〃	特定経穴					
13	〃	体幹連動の見方、運動療法	30	上半身の復習						
14	臀部、股関節部	障害筋の診方、刺鍼法	31	下半身の復習						
15	総括		32	効果判定試験						
16	効果判定試験									
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
配布資料										
					担当講師	荻野 修平				

鍼灸科

科目	スポーツ医学			必修	履修 学年	2	授業の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	32 (2)
目 標	身体の構造や機能を理解し、正常動作、移乗動作について学習する。運動能力を最大限発揮するために必要な知識を身に付け、スポーツ現場、介護現場等でのリハビリテーションや機能訓練に活かす。									
内 容										
1	関節と運動	関節運動としてこ・空間における関節運動								
2	姿勢・異常姿勢	重心と重心線・異常姿勢								
3	運動路と感覚路	運動路・感覚路								
4	反射と随意運動	脊髄反射、反射								
5	〃	平衡反応、連合反応と共同運動								
6	体幹の機能	椎骨、椎間板、脊柱の動きと、筋の作用、胸郭の動きと呼吸筋作用								
7	肩甲帯の機能	肩甲帯・肩の構造、主な筋、回旋筋腱板、肩甲上腕リズム								
8	肘・前腕の機能	肘と前腕の構造、主な筋								
9	手・手指の機能	手関節の骨構造と関節・主な筋・手のアーチ・内在筋・変形								
10	股関節の機能	骨盤と股関節の構造・主な筋・股関節の動き・股関節の異常								
11	膝関節の機能	膝関節の構造、主な筋、膝関節の異常								
12	足の機能	足の構造、主な筋、足のアーチと変形								
13	正常歩行	歩行のサイクル、速度とエネルギー消費								
14	異常歩行	歩行の分析と異常歩行								
15	総括									
16	効果判定									
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
配布資料										
						担当講師	松丸 啓司			